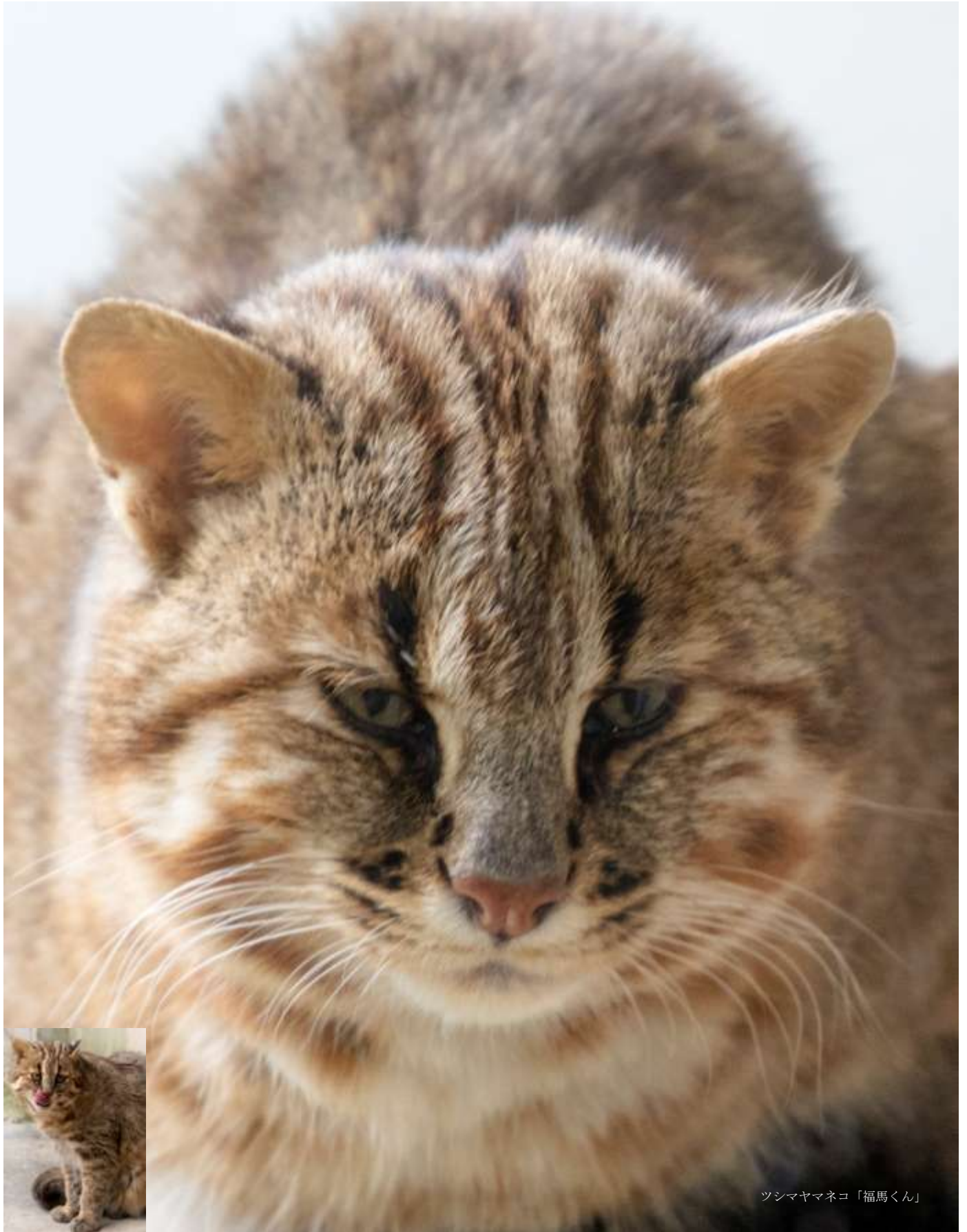


ホーダーーツーリズム対馬・釜山

2017年11月10日～14日 齊藤マサヨシ



ツシマヤマネコ「福馬くん」



国境の島「対馬」韓国の釜山とは直線にして 49.5km

比田勝の居酒屋で盛り上がっていたら「釜山の夜景が見える」との報。

それ！とバスに乗り込み、韓国展望台に走る。

釜山の煌びやかな夜景が海峡に映えていた。



対馬は過去・現在そして未来も大陸とのかけ橋

11月11日、ホテルを出発、藤井敦子さんの案内で厳原の街を歩く。かつて府中と呼ばれた宗氏の城下町は、町全体が歴史博物館のようである。武家屋敷の石垣が残されている通りを歩き、金石城跡、宗氏ゆかりの万松院、朝鮮通信使が着いた港、交流拠点となった西山禅寺などを見る。



金石城楼門は、ふるさと創生資金の1億円で再建されたとのこと。



厳原の通りには武家屋敷跡の石垣が随所に残されている。道幅が狭い厳原では石垣が防火壁として今でも役立っている。



かつて朝鮮通信使を応接遇した場所には、対馬歴史民俗資料館が建っていて、朝鮮通信使の歴史を紹介している



対馬の領主であった宗氏ゆかり「万松院」にて 2017.11.11



江戸を目指した朝鮮通信使が日本の第1歩を標した港



朝鮮との外交を担った僧が居住した西山寺、朝鮮通信使の宿泊所でもあった（上）寺の向かいには朝鮮語学校があった（左）



対馬の古城跡を訪ねる



1591年、秀吉の朝鮮出兵時に軍事基地として築かれた清水山城跡。自然地形を利用した石垣は今も残り、厳原の街を見下ろし、海峡を見据えている。(写真上と右)



663年白村江の戦いに敗れた大和政権は、唐・新羅の連合軍の侵攻に備え、浅茅湾を見下ろす山城「金田城」を築いた。入口には大吉戸神社、山腹には石垣が今も残っている。

市営渡海船「うみさちひこ」は、島民の海上の足として活躍しているが、定期時間外であれば浅茅湾クルーズを楽しむことができる。シーズン中はシーカヤックやスキューバダイビングに賑わう浅茅湾は、どこまでも透明で美しい海が広がっている。神々の伝説のある島にふさわしい光景である。



浅茅湾クルーズ



1861年、ロシア軍艦ポサドニック号による対馬占領事件が起こった。ビリリョフ艦長は浅茅湾の芋崎（写真左）に無断上陸して兵舎の建設を始めた。対馬藩は事態を解決すべく、幕府と共に粘り強く交渉。ビリリョフは説得を受け入れ、約5か月後に対馬から退去した。

旧日本海軍の水雷艇基地があった美津島町の入り江。現在は海上自衛隊対馬防備隊の基地になっている。基地の隣接地には、韓国資本によるリゾートマンション（写真右の黄色の建物）が建っている。





1901年に旧日本海軍が掘った人口の瀬戸「万関」赤い大橋が対馬の上下島を結んでいる



浅茅湾の真珠養殖は、穏やかな天然の入り江の有効利用を図るため、明治の終わりごろに三重から養殖技術が持ち込まれて始まった。今では全国有数の産地である（写真左）

浅茅湾では 2000 年代に入ってからクロマグロ（幼魚＝ヨコワ）の畜養が行われるようになった。湾内の入り江では、直径 30m ほどの畜養施設が随所にある。（写真右）



和多都美神社

航海の安全を祈願する和多都美神社には、海幸彦・山幸彦の神話が今に伝わっている。海に立つ鳥居と奥深い原生林、それら全てが神域である。



本殿の奥にある豊玉姫の霊石



本殿の横には、ト占の神事が行われた特別に神聖な場所がある。対馬には古代からト占と亀卜の能力を持った人がいて、時の政権に卜部として仕えていた。



本殿前で豊玉姫の伝説を語る藤井さん（写真左）
ハンゲル語で書かれた絵馬が数多く見られるのも対馬の今を感じさせてくれる（写真上）



インバウンド先進地「対馬」の今



韓国ツアー客で混雑する比田勝のターミナル



巖原の街を歩く韓国からのツアー客

人口が3万人の対馬にやって来る韓国人は年間約25万人。対馬は日本の各地にやがては訪れるであろうインバウンドの先進地である。対馬の比田勝港から釜山までは高速船で約1時間。日帰りで買い物や島内自転車ツーリングなどリゾートを楽しむ韓国人が毎日どーっとやって来る。街かどですれ違った高校生二人組は「日本人なのか韓国人なのかわかんなくなってしまう」と会話していた。



買い物袋を手にした韓国人ツアー客



自転車でも島内観光を楽しむ韓国人ツアー客、対馬藩宗家第37代当主と朝鮮李王朝の娘との結婚エピソードの説明に耳を傾けていた。(写真上左)
夜の街には、ハンゲル語で友好の看板を掲げた飲食店が多い(写真上右)



比田勝の免税店「GATEWAY」店内には高級ブランド品や全国の有名土産物品が並んでいる。店長に売れ筋を聞くと「ゲルマニウム・ブレスレットの高いやつ、お菓子では白い恋人かな」とのこと。(写真上2枚)
比田勝と釜山を結ぶ高速船(写真右)



対馬から釜山へ



釜山の港を見下ろす高台に龍頭山公園がある。この公園は15世紀から19世紀まで対馬藩の朝鮮交流の拠点となった倭館（17世紀から草築倭館、約10万坪）が置かれ、日本人町として賑わっていた。



五六島、晴れた日には水平線に対馬の島影が見える



五六島にあるスカイウォーク（ガラス張りの展望橋）

**朝鮮海峡を望む要所
五六島に旧日本軍の
砲台跡を訪ねる**



かつて旧日本軍の砲台があった場所でガイドの説明を聴く。周囲には高層ビルが林立している。



朝鮮通信使歴史館

室町時代に始まった朝鮮通信使の歴史についてパネルや模型、アニメ映像などを使って説明している。とくに江戸時代の12回の朝鮮通信使については詳しく解説している。(写真左3枚)



釜山の日本総領事館前にある少女像



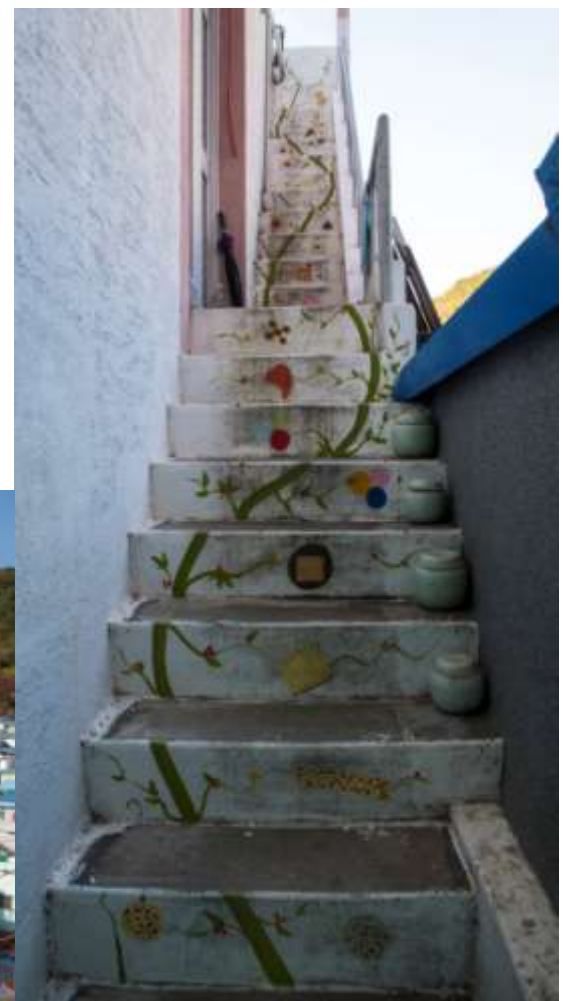
釜山の繁華街、国際市場



海産物の露天が連なるチャガル市場



韓国のマチュピチュ「甘川文化村」



甘川村で見つけたジャックと豆の木



龍頭山公園（かつての草築倭館跡）にて 2017年11月13日



釜山港のビートルが出入港に使う
栈橋（写真左）とビートルから見た
対馬の島影（写真下）



対馬のごちそう



とにかく美味しい！
あなごのフライ



対馬の名物料理「とんちゃん」



あかむつの刺身



とん足のから揚げ